

目次

口 絵	
発刊のことば	双海町長 上田 稔
発刊に寄せて	双海町誌編さん委員長 若松 進一
凡 例	

第一編 双海町の概要	1
第一章 立地と人口	3
第一節 町の位置と面積	3
第二節 地 勢	3
第三節 人 口	4
第四節 気 質	9
第二章 気 象	10
第一節 概 要	10
第二節 異常気象と災害	15
第三章 地 質	30
第一節 日本の地質概要	30
第二節 伊予郡市の地質概要	33

第三節 双海町の地質概要	36
第四章 生 物	48
第一節 植 物	48
第二節 動 物	49
第二編 沿 革	53
第一章 原始・古代	55
第一節 旧石器時代	55
第二節 縄文時代	57
第三節 弥生時代	58
第四節 古墳文化と古代国家	59
第五節 古 代	60
第二章 中 世	67
第一節 鎌倉・南北朝時代	67
第二節 室町・戦国時代	71
第三節 郷土の諸城	75
第三章 近 世	83
第一節 概 要	83
第二節 関ヶ原の合戦	84
第三節 伊予八藩	85
第四節 大洲藩の成立	85

第五節 幕府の大名対策	86
第六節 検地と石高	87
第七節 領民の生活	89
第八節 郷土の様子	90
第九節 幕府巡見使と大名	93
第一〇節 藩行政と郷土	93
第一一節 藩米高と納入方法	94
第一二節 郷土の自治組織	94
第一三節 藩札	95
第一四節 厳しい生活制限	96
第一五節 幕末の動向	97
第四章 近代	99
第一節 概要	99
第二節 明治時代	101
第三節 大正・昭和前期	111
第四節 兵事	119
第五節 議決機関	134
第六節 執行機関	137
第五章 大戦後の郷土	142
第一節 戦後十年の歩み	142
第二節 上灘町と下灘村の合併	148

第六章 双海町五十年	159
第一節 主なできごと	159
第二節 選挙	167
第三節 議決機関	172
第四節 執行機関	175
第五節 町の財政	183
第六節 大字と集落	198
第七節 双海のまちづくり	201
第八節 平成の大合併	205
第三編 産業・経済	217
第一章 産業人口	219
第一節 安土桃山時代前	219
第二節 藩政時代	219
第三節 近代	220
第四節 現代	221
第二章 農政	223
第一節 概要	223
第二節 終戦前後の農政	225
第三節 新しい農政	231

第三章 農 業

第一節 概 要	235
第二節 農業技術の発達と機械化	238
第三節 生産基盤の整備	242
第四節 農業振興対策	243
第五節 農業協同組合、農業共済組合	247
第六節 養 蚕	251
第七節 畜 産	253
第八節 普通作物	256
第九節 果樹園芸	259
第一〇節 特用作物	270

第四章 林 業

第一節 概 要	272
第二節 林業振興対策	277
第三節 建築材	285
第四節 薪 炭	286
第五節 シイタケの生産	288
第六節 森林組合	289

第五章 漁 業

第一節 漁場の開拓	291
第二節 明治期の漁業	294

第三節 大正・昭和期の漁業

第四節 現代の漁業	298
第五節 漁港の整備	310
第六節 漁業振興対策	321
第七節 漁業協同組合	329

第六章 商 工 業

第一節 概 要	343
第二節 工 業	344
第三節 商 業	351
第四節 商工業振興対策	354
第五節 商 工 会	356
第六節 経営の近代化	358
第七節 金融機関	363

第七章 観 光

第一節 豊かな観光資源の開発	364
第二節 観光振興対策	370
第三節 施設の整備	373
第四節 まつり・イベント	380
第五節 物 産	391
第六節 双海町観光協会	394

第四編 教育・文化

次 第一章 教 育

目

第一節 沿革・概要	399
第二節 教育行政	404
第三節 江戸時代の教育	411
第四節 小学校教育	415
第五節 中学校教育	433
第六節 P T A	444
第七節 学校給食	448
第八節 幼児教育	449
第九節 青年教育	450
第一〇節 高等女学院	459
第一一節 社会教育	461
第一二節 公民館	471
第一三節 社会体育・レクリエーション	489
第一四節 人権教育	493
第二章 文 化	501
第一節 文化・芸術活動	501
第二節 文化行事	502
第三節 文化団体・グループ	504
第四節 文化遺産	505
第五編 民俗・宗教	539

第一章 民 俗

第一節 概 要	541
第二節 生産暦	543
第三節 仕事と道具	545
第四節 衣服と仕事着	550
第五節 織物と染料	553
第六節 食 事	554
第七節 赤飯・餅・だんご	557
第八節 家の建て方	560
第九節 社会生活	564
第一〇節 物資の運搬・交易	566
第一一節 一生の儀礼	570
第一二節 別火・墓制	576
第一三節 年中行事	577
第一四節 信仰の旅と道祖神	589
第一五節 民俗信仰	590
第一六節 郷土芸能・娯楽	596
第一七節 方言・言語芸術	600
第一八節 昔話と伝説	623
第二章 宗 教	634
第一節 神道(神社・教会)	634
第二節 仏教(寺院)	646

第六編 厚生	657
第一章 福祉	659
第一節 社会福祉法の目的	659
第二節 福祉六法に基づく福祉施策	659
第三節 地域福祉	670
第四節 保育所・年金等	683
第二章 保健・衛生・医療	688
第一節 保健・衛生	688
第二節 医療	696
第七編 生活環境	699
第一章 交通運輸と通信報道	701
第一節 概 要	701
第二節 近世の交通	703
第三節 近・現代の交通	705
第四節 通信報道	722
第二章 治安と消防	730
第一節 治 安	730
第二節 消 防	737

第三章 基盤整備と環境保全	748
第一節 土地利用計画	748
第二節 市街地の整備	750
第三節 住宅の整備	750
第四節 河川の整備	752
第五節 公園・緑地の整備	756
第六節 自然環境の保全	761
第八編 人物小伝	763
年 表	781
参考文献一覧表	
編集後記	
あとがき	